

What's New

Appeon PowerBuilder® 2017 R3
FOR WINDOWS

DOCUMENT ID: DC37790-01-1700-01

LAST REVISED: July 25, 2018

Copyright © 2018 by Appeon Limited. All rights reserved.

This publication pertains to Appeon software and to any subsequent release until otherwise indicated in new editions or technical notes. Information in this document is subject to change without notice. The software described herein is furnished under a license agreement, and it may be used or copied only in accordance with the terms of that agreement.

Upgrades are provided only at regularly scheduled software release dates. No part of this publication may be reproduced, transmitted, or translated in any form or by any means, electronic, mechanical, manual, optical, or otherwise, without the prior written permission of Appeon Limited.

Appeon and other Appeon products and services mentioned herein as well as their respective logos are trademarks or registered trademarks of Appeon Limited.

SAP and other SAP products and services mentioned herein as well as their respective logos are trademarks or registered trademarks of SAP and SAP affiliate company.

Java and all Java-based marks are trademarks or registered trademarks of Oracle and/or its affiliates in the U.S. and other countries.

Unicode and the Unicode Logo are registered trademarks of Unicode, Inc.

All other company and product names mentioned may be trademarks of the respective companies with which they are associated.

Use, duplication, or disclosure by the government is subject to the restrictions set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of DFARS 52.227-7013 for the DOD and as set forth in FAR 52.227-19(a)-(d) for civilian agencies.

Appeon Limited, 1/F, Shell Industrial Building, 12 Lee Chung Street, Chai Wan District, Hong Kong.

目次

1	PowerBuilder 2017 R3 新機能	1
1.1	RESTClient による DataWindowChild へのデータ取得サポート	1
1.2	JSON データのマージと抽出	1
1.3	データエンコーディング	1
1.4	データ暗号化	2
1.5	PDFlib メソッドの拡張	2
1.6	自動サインイン/アウト	2
1.7	PowerBuilder コンパイラの拡張	3
1.8	DataWindow での JSON インポート/エクスポート	3
1.9	OAuth 2.0 のサポート	3
1.10	ソースコントロールの強化	4
1.11	より多くの PowerServer 機能を PowerBuilder に統合	5
1.12	PostgreSQL サポートの拡張	5
1.13	SQL Server 2017 サポート	5
1.14	PBMinorRevision プロパティの拡張	5
1.15	2017 または 2017 R2 からのアップグレード	5
2	PowerBuilder 2017 R3 の修正バグと既知の問題	6
3	PowerBuilder 2017 R2 新機能	7
3.1	RESTful Web サービスの利用	7
3.2	SVN & Git によるソース管理	7
3.3	PostgreSQL ODBC ドライバー	7
3.4	PDFlib メソッドの強化	8
3.5	SQL Anywhere 16 & 17 の MobiLink 同期をサポート	8
3.6	PowerBuilder コンパイラの強化	9
3.7	Standard Edition での Web サービスプロキシ(ウィザード)利用	9
4	PowerBuilder 2017 新機能	10
4.1	更新されたソフトウェア要件	10
4.2	PDFlib を利用した PDF の保存	10
4.3	OrcaScript の強化	11
4.4	スタンドアロン PowerBuilder コンパイラ	11
4.5	新しい RichTextEdit コントロール	12
4.6	PowerServer Mobile の組み込み	14
4.7	新しいライセンスメカニズム	15
4.8	分類された機能	15

1 PowerBuilder 2017 R3 新機能

この章について

この章では、PowerBuilder 2017 R3の新機能について説明します。

1.1 RESTClientによるDataWindowChildへのデータ取得サポート

RESTClientのRetrieve関数は、DataWindowChildオブジェクトへのデータ取得をサポートするために以下のような構文に拡張されています:

```
long Retrieve ( dwcontrol, urlname {, data} {, tokenrequest} )
```

構文についての詳細は、*PowerScript Reference*のセクション 10.520 "Retrieve"を参照してください。

次のDataWindowChildプレゼンテーションスタイルはサポートされません: Composite、Crosstab、OLE 2.0、およびRichText

注意

RESTClient Retrieve関数のds/dw引数は、2017 R2では参照渡し(By reference)でしたが、2017 R3では値渡し(By value)に変更されたため、R2からR3に移行後に動作させるためには、ソースコードから"ref"宣言を削除してフルビルドを行う必要があります。

1.2 JSONデータのマージと抽出

JSONオブジェクトのデータマージおよびJSONオブジェクトからのデータ抽出を可能にするため、JSONPackageという新しいオブジェクトが提供されます:

- マージするデータは、DataWindow、DataStore、DataWindowChild、または既存のJSONから取得できます。Composite、Crosstab、OLE 2.0、およびRichText DataWindowはサポートされません。
- 生成されたJSONは、HTTPClient経由でサーバーへ送信、またはRESTClient経由でサーバーからクライアントへ取得することができます。

詳細は、*Objects and Controls*のセクション 2.43 "JSONPackage object"を参照してください。

1.3 データエンコーディング

Hex、Base64、URLといった主流エンコーダーを使用したStringまたはBlobデータのエンコードまたはデコードを可能にするため、CoderObjectという新しいオブジェクトが提供されます。

詳細は、*Objects and Controls*のセクション 2.7 "CoderObject object"を参照してください。

1.4 データ暗号化

主流アルゴリズムを使用したStringまたはBlobデータの暗号化または複合化を可能にするため、CrypterObjectという新しいオブジェクトが提供されます。

詳細は、*Objects and Controls*のセクション 2.14 "CrypterObject object"を参照してください。

1.5 PDFlibメソッドの拡張

PDFlibを使用したPDF保存メソッド用に次のプロパティおよび関数が提供されます:

- Export.PDF.NativePDF.UserPasswordプロパティ -- PDFファイルを開くパスワードを設定します。この機能はPDF/A標準を使用して作成されたファイルには影響しません。このプロパティについての詳細は、*DataWindow Reference*のセクション 3.3.70 "Export.PDF.NativePDF.UserPassword"を参照してください。
- Export.PDF.NativePDF.MasterPasswordプロパティ -- 印刷、コピー、編集等の権限パスワードを設定します。この機能はPDF/A標準を使用して作成されたファイルには影響しません。このプロパティについての詳細は、*DataWindow Reference*のセクション 3.3.67 "Export.PDF.NativePDF.MasterPassword"を参照してください。
- Export.PDF.NativePDF.Restrictionsプロパティ -- 印刷、コピー、編集等の権限を設定します。この機能はPDF/A標準を使用して作成されたファイルには影響しません。このプロパティについての詳細は、*DataWindow Reference*のセクション 3.3.69 "Export.PDF.NativePDF.Restrictions"を参照してください。
- SaveNativePDFToBlob関数 -- 生成されたPDFをBlobで保存します。この関数についての詳細は、*DataWindow Reference*のセクション 9.135 "SaveNativePDFToBlob"を参照してください。

1.6 自動サインイン/アウト

PowerBuilderログインウィンドウおよびアカウント管理ウィンドウに自動サインイン/アウトオプションが提供されます:

- 起動時に自動ログオンする。このオプションはデフォルトで選択されています。オンラインライセンスを使用しているユーザーは、PowerBuilder IDEの起動時に自動でライセンスをログインします。次回のログインのためにユーザー名とパスワードが保存されます。

- 終了時にサインアウトする。このオプションは仮想マシンのデフォルトでは選択されていますが、物理マシンのデフォルトは選択されていません。オンラインライセンスを使用しているユーザーは、ネットワーク接続がある状態でPowerBuilder IDEを通常の方法で終了した場合、自動的にライセンスをログアウトできます。

1.7 PowerBuilderコンパイラの拡張

PowerBuilderコンパイラ実行時のパラメーターとして、次のデプロイメントオプションの使用がサポートされます:

- 製品バージョン 対応する実行時パラメーター: /vn
- ファイルバージョン 対応する実行時パラメーター: /fvn

これらのパラメーターについての詳細は、¥Apeon¥PowerBuilder 17.0¥AutoCompiler内のPBC user guide (pbc.pdf)を参照してください。

1.8 DataWindowでのJSON インポート/エクスポート

DataWindowコントロール、DataStoreオブジェクトまたはDataWindowChildオブジェクトからJSONをインポートおよびエクスポートする新しい関数(ImportJson、ImportJsonByKey、ExportJson)が提供されます。

但し、次のプレゼンテーションスタイルはサポートされません: Composite、Crosstab、OLE 2.0、RichText

この関数についての詳細は、*DataWindow Reference*のセクション 9.96 "ImportJson"、セクション 9.97 "ImportJsonByKey"およびセクション 9.29 "ExportJson"を参照してください。

DataWindowにインポートできるJSON文字列は、*DataWindow Reference*のSimpleまたはStandardフォーマットに準拠している必要があります。

1.9 OAuth 2.0のサポート

OAuth 2.0をサポートするために、次のオブジェクトが提供されます:

- TokenRequest -- アクセストークンリクエスト、認証サーバーアドレス、OAuth 2.0認証プロセス、アクセストークンの範囲、セキュアプロトコル、タイムアウト値などのプロパティを取得または設定します。詳細については、*Objects and Controls*のセクション2.100 "TokenRequest object"を参照してください。
- TokenResponse -- 認証サーバーから返されたアクセストークンレスポンス、アクセストークン、リフレッシュトークン、HTTPレスポンスヘッダなどの情報を取得します。詳細については、*Objects and Controls*のセクション2.101 "TokenResponse object" を参照してください。

- OAuthClient -- アクセストークンと保護されたリソースを取得するためのインターフェイスを提供します。詳細については、*Objects and Controls*のセクション2.61 "OAuthClient object"を参照してください。
- OAuthRequest -- アクセストークンを使用して、保護されたリソースのHTTPリクエスト、サーバーアドレス、リクエストヘッダー、セキュアプロトコル、タイムアウト値などのプロパティを取得します。詳細については、*Objects and Controls*のセクション2.62 "OAuthRequest object"を参照してください。
- ResourceResponse -- サーバーから返された保護されたリソースリクエスト、HTTPレスポンスヘッダ、保護されたリソースのレスポンス情報を取得します。詳細については、*Objects and Controls*のセクション 2.82 "ResourceResponse object"を参照してください。

RESTClientのRetrieve関数は、OAuth 2.0をサポートするために "tokenrequest" パラメーターが拡張されています。構文の詳細については、PowerScript Referenceのセクション10.520 "Retrieve"を参照してください。

1.10 ソースコントロールの強化

SVN/Gitソースコントロールは、次の内容が強化されています:

- 他のユーザーがオブジェクトの変更をコミットできないよう、ソースコントロールサーバーでオブジェクトのロックを制御するゲット/リリース ロックオプションが提供されています。(SVNのみ)
- ローカルディレクトリ内のオブジェクトと最後にソースコントロールサーバーへ同期したオブジェクトのバージョンを比較するSVN DiffとGit Diffオプションが提供されています。
- コミット時に入力されたリビジョンログを表示させるSVN Show LogとGit Show Logオプションが提供されています。
- オブジェクトのあるフォルダーを開くOpen Containing Folderオプションが提供されています。
- PBLは、PBGファイルではなくws_objectsフォルダー内のオブジェクトに従って更新されます。このためPBGファイルは削除されます。
- R2で既にSVNソースコントロールにターゲットを追加している場合、R3で正常に競合の解決や変更のマージを行うためには、このターゲットと配下ファイルのバイナリプロパティを削除しておく必要があります。(SVNのみ)
手順の詳細は、*Users Guide*のセクション 3.2.5.1 "Remove the binary property from a R2 source-controlled workspace"を参照してください。

- SVN/Gitコントロールで管理されているソースコードをOrcaScriptでコンパイルできます。SVN/GitでOrcaScriptを使用する方法については、*Users Guide*のセクション B.4 "Usage notes for OrcaScript commands with SVN/Git" を参照してください。

SVN/Gitソースコントロールについての詳細は、*Users Guide*のセクション 3.3 "Using Git source control system"を参照してください。

1.11 より多くのPowerServer機能をPowerBuilderに統合

PowerBuilder 2017 R3 は、より多くのPowerServer機能と統合するように強化されています:

1. PowerBuilder Universal Editionに含まれるPowerServer (PB Edition)は、PowerServer Mobileのみをサポートするのではなく、.NETベースのPowerServerへWebアプリをデプロイする等のPowerServer Webに関連する機能もサポートします。PowerServer Webに関連する機能を利用するには、無料のDeveloperライセンスが必要です。
2. PowerBuilder 2017 R3 には、PowerServer Mobileのオフライン機能が含まれます。PowerServer Webの機能およびPowerServer Mobileのオフライン機能についてのユーザーマニュアルは、PowerBuilder Universal EditionでインストールできるPowerServer Helpに含まれています。

1.12 PostgreSQLサポートの拡張

PBODB初期化ファイルにPostgreSQL用の多くのパラメーターが追加されています。追加されたパラメーターリスト、関連する構文および関数を表示するには、PBODB170.INI 内で"PostgreSQL"を検索してください。

1.13 SQL Server 2017 サポート

PowerBuilder 2017 R3は、ODBC、OLE DB、ADO.NET または SQL Native Clientインターフェイスを使用してMicrosoft SQL Server 2017データベースに接続できます。

1.14 PBMinorRevisionプロパティの拡張

EnvironmentのPBMinorRevisionプロパティは、PowerBuilder 2017 R2およびR3のポイントリリースを反映するように拡張され、0 は GA、1 は R2、2 は R3 を示します。

1.15 2017 または 2017 R2 からのアップグレード

セットアッププログラムを実行して PowerBuilder 2017 または 2017 R2 を 2017 R3 にアップグレードできます。アップグレードでは、すべての現行設定とユーザー設定が引き継がれます。

2 PowerBuilder 2017 R3 の修正バグと既知の問題

PowerBuilder 2017 R3で修正されたバグと既知の問題は、Release Bulletin for PowerBuilderの次のリンクに掲載されています:

PowerBuilderの修正バグ:

https://www.appeon.com/support/documents/appeon_online_help/pb2017r3/release_bulletin_for_pb/bug_fixes.html

PowerBuilderの既知の問題:

https://www.appeon.com/support/documents/appeon_online_help/pb2017r3/release_bulletin_for_pb/known_issues.html

3 PowerBuilder 2017 R2 新機能

この章について

この章では、PowerBuilder 2017 R2の新機能について説明します。

3.1 RESTful Webサービスの利用

JSONデータのやり取りやRESTful Webサービスを使用するために次のオブジェクトが用意されています：

- HTTPClient オブジェクト -- HTTPリクエストを送信し、URIで識別されるリソースからHTTPレスポンスを受信するための基本オブジェクトとなります。このオブジェクトは、Inetオブジェクトと比較して、使いやすくより多くのメソッド(Get/Post/Put/Delete)とより多くのSSLプロトコルをサポートします。このオブジェクトの詳細については、*Objects and Control*の"HTTPClient object"を参照してください。
- JSONGenerator オブジェクト -- ルート項目が、オブジェクトまたは配列のいずれかであるJSONオブジェクトを構築する機能を提供します。これは構築されたJSONオブジェクトに値、オブジェクト、または配列を追加することをサポートします。このオブジェクトの詳細については、*Objects and Control*の"JSONGenerator object"を参照してください。
- JSONParserオブジェクト -- JSON形式の文字列やテキストファイルからデータを取り込み・参照する機能を提供します。このオブジェクトの詳細については、*Objects and Control*の"JSONParser object"を参照してください。
- RESTClientオブジェクト -- RESTful WebAPIにアクセスする機能を提供します。RESTful WebAPIから返されたJSON形式の文字列をデータウィンドウオブジェクトに読み込みます。このオブジェクトの詳細については、*Objects and Control*の"RESTClient object"を参照してください。

これら4つのオブジェクトは、.NET Web サービス、.NET アセンブリコンポーネントではサポートされていません。

3.2 SVN & Gitによるソース管理

PowerBuilderは、Subversion(SVN)やGitクライアントをインストールせずPowerBuilder IDEでソース管理の操作と機能を実行可能な、SVNおよびGitのネイティブインターフェイスオプションを提供します。ワークスペースへの接続(SVNのチェックアウト、Gitのクローンに相当)、ソースコントロールへの追加、コミット、リポート、リゾルブ、アップデート(SVN)、プル(Git)やプッシュ(Git)などを含む一般的に使用されるSVN / Gitコマンドがサポートされています。

詳細については、*Users Guide*の"Using SVN source control system"および"Using Git source control system"を参照してください。

3.3 PostgreSQL ODBCドライバー

PowerBuilderは、PostgreSQL ODBCドライバーをサポートし、PowerBuilderアプリはPostgreSQL ODBCドライバーを経由してPostgreSQL 10(32-bitおよび64-bit)データベースに接続できます。

注意

PostgreSQLデータベースは、ストアードプロシージャのデータソースとして使用することはできません。また、ODBCインターフェイス経由でPostgreSQLデータベースに接続するには、はじめにPBODB170.INIを設定する必要があります。PBODB170.INIファイルの設定方法については、*Connecting to Your Database*のセクション A.1 "APPENDIX Adding Functions to the PBODB170 Initialization File"を参照してください。

3.4 PDFlibメソッドの強化

PDFlibを使用したPDF保存メソッド用に次のプロパティおよび設定が提供されます:

- `Export.PDF.NativePDF.ImageFormat` -- PDFlibメソッドを使用してデータウィンドウオブジェクトからPDFファイルに保存する際のイメージフォーマットを選択できます。このプロパティについての詳細は、*DataWindow Reference*のセクション 3.3.66 "`Export.PDF.NativePDF.ImageFormat`"を参照してください。
- `Export.PDF.NativePDF.PDFStandard` -- PDFlibメソッドを使用してデータウィンドウオブジェクトからPDFファイルに保存する際のPDF規格を選択できます。このプロパティについての詳細は、*DataWindow Reference*のセクション 3.3.68 "`Export.PDF.NativePDF.PDFStandard`"を参照してください。
- `Export.PDF.NativePDF.UsePrintSpec` -- PDFlibメソッドを使用してデータウィンドウオブジェクトからPDFファイルに保存する際のページの向きと用紙サイズに、「印刷の仕様」タブ内にある「紙の方向」と「紙のサイズ」プロパティの設定内容を使用することができます。このプロパティについての詳細は、*DataWindow Reference*のセクション 3.3.71 "`Export.PDF.NativePDF.UsePrintSpec`"を参照してください。

3.5 SQL Anywhere 16 & 17のMobiLink同期をサポート

PowerBuilderは、SQL Anywhere 16 & 17のMobiLink同期をサポートします。

3.6 PowerBuilderコンパイラの強化

PowerBuilderコンパイラ実行時のパラメーターとして、次のデプロイメントオプションの使用がサポートされます:

- 「トレース情報」オプション 実行時のパラメーター : /tr y|n
- 「エラー情報」オプション 実行時のパラメーター : /in y|n
- 「最適化」オプション 実行時のパラメーター : /op 0|1|2
- 「DEBUGシンボル有効」オプション 実行時のパラメーター : /bg y|n
- 「生成オプション」オプション 実行時のパラメーター : /ge 0|1|2
- 「実行レベル」オプション 実行時のパラメーター : /le 0|1|2
- 「保護されたシステムUIへのアクセスを許可する」オプション 実行時のパラメーター : /ps y|n

パラメーターの詳細については、¥Appeon¥PowerBuilder 17.0¥AutoCompilerのPBCユーザーガイド (pbc.pdf)を参照してください。

3.7 Standard EditionでのWebサービスプロキシ(ウィザード)利用

PowerBuilder 2017 R2からは、Standard EditionとUniversal Editionの両方でWebサービスプロキシおよびWebサービスプロキシウィザードを使用できます(PowerBuilder 2017ではUniversal Editionのみ利用できました)。

4 PowerBuilder 2017 新機能

この章について

この章では、PowerBuilder 2017の新機能について説明します。

4.1 更新されたソフトウェア要件

PowerBuilder 2017は、以下のWindowsオペレーティングシステムにインストールできます (Windows XP および Vistaはサポートされません):

- Windows 7 32/64-bit with SP1
- Windows 8.1
- Windows Server 2008 32/64-bit with SP2 (実行環境のみ)
- Windows Server 2012 R2 (実行環境のみ)
- Windows Server 2016 (実行環境のみ)
- Windows 10 (2017で新たにサポートされます)

PowerBuilder 12.6と比較して、PowerBuilder 2017は次のデータベースバージョンをサポートします:

- SQL Server 2016, 2014, 2012, および 2008 R2
- Oracle 12c
- SQL Anywhere 17, 16, and 12
- ASE 16
- Informix 12.x

他のサポートデータベースタイプとバージョンは、*Connecting to Your Database*のPart II "Working with Standard Database Interfaces"を参照してください。

4.2 PDFlibを利用したPDFの保存

PowerBuilder 2017では、サードパーティツールやドライバーのインストールや設定を行うことなく、データを直接PDFへ保存する方法が提供されています。この機能はPowerBuilderとともにインストールされ、PowerBuilderアプリケーションと合わせて配布されるPDFlibという軽量のライブラリに依存しており、開発にかかる追加コストはありません。PDFlibは、ビルドの過程で開発者が設定や選択を行う必要はなく、PowerBuilderアプリケーション実行ファイルに自動でパッケージされます。

このメソッドの使用方法については、*DataWindow Reference*のセクション 3.3.63 "Export.PDF.Method" および*Users Guide*のセクション 18.3.1.2 "Saving as PDF using PDFlib"を参照してください。

PDFLib のデプロイメントについての詳細は、*Application Techniques* のセクション 35.8.2 "Using the PDFlib generator"を参照してください。

4.3 OrcaScriptの強化

OrcaScriptツールは、下記の理由で大きく強化されています：

- OrcaScriptは、DOSコマンドとバッチファイルを呼び出すことができます。
詳細については、*Users Guide*のセクション B.1 "About OrcaScript"を参照してください。
- 1つのライブラリファイルに対してPBDフラグを設定するための "set appendlib" コマンドが提供され、長いライブラリリストでもPBDフラグを設定しやすくなります。
詳細については、*Users Guide*のセクション B.2 "OrcaScript Commands"を参照してください。
- OrcaScriptおよびOrca APIは、64-bit実行ファイルのコンパイルをサポートしています。
詳細については、*Users Guide*のセクション B.2 "OrcaScript Commands"およびORCA Guideの PBORCA_ExecutableCreateを参照してください。
- PBORCA_ApplicationRebuild eRebldType引数は、新しいPBORCA_REBLD_TYPE列挙型 (PBORCA_3PASS)をサポートします。
詳細については、ORCA GuideのPBORCA_ApplicationRebuildを参照してください。
- OrcaScriptは、デバッグに役立つより詳細なログを生成します。
- OrcaScriptはライセンスコントロールが取り除かれ、PowerBuilderがインストールされていないマシンでも自由に使用できます。

4.4 スタンドアロンPowerBuilderコンパイラ

スタンドアロンツール -- PowerBuilderコンパイラ (OrcaScriptを含むpbc170.exe) は、ビルドスクリプトを大幅に簡素化するために提供され、PowerBuilderの外でビルドプロセスやデプロイメントプロセス全体を自動化することができます。このツールはPowerBuilder 2017のインストールディレクトリにある AutoCompiler¥AutoCompile.exe (たとえばC:¥Program Files¥Appeon¥PowerBuilder 17.0¥AutoCompile¥AutoCompile.exe)を実行することでインストールできます。

PBCの使用方法については、インストールフォルダー内のPBC user guide (pbc.pdf)および*Users Guide*のセクション B.1 "About OrcaScript"を参照してください。OrcaScriptの使用方法については、*Users Guide*のAppendix B The OrcaScript Languageを参照してください。

4.5 新しいRichTextEditコントロール

PowerBuilder 2017では、PowerBuilderやInfoMakerの開発者が自由に使用できる、新しいRichTextEditコントロールが追加されました。

この新しいコントロールは、RichTextEditコントロール、RichTextデータウィンドウオブジェクト、およびRichText様式のカラムに適用されます。

PowerBuilderの開発者は、新しいコントロールを無料で使用するか、古いコントロールの使用を継続するかを選択できます(古いコントロールは別途購入する必要があります)。InfoMakerの開発者は、新しいコントロールのみを使用でき、古いコントロールを使用することはできません。

新しいコントロールには、以下の(設計方法が異なることによる)相違点と問題点を除いて、以前のコントロールと同じ機能/イベント/プロパティがあります:

表 4.1:

影響範囲	種別	概要
2 バイト文字	非サポート	新しいコントロールでは、日本語、韓国語などの 2 バイト文字はサポートされず正しく表示されない場合があります。
InputFieldBackColor プロパティ	機能制限	新しいコントロールでは、このプロパティは PDF ファイルへのデータ保存時、または印刷時にのみ有効です。デザインビューでのプレビューおよび実行時には、背景が灰色で表示されます。
Wordwrap プロパティ	機能制限	新しいコントロールでは、このプロパティは常に true となります (false に設定することはできません)。
BackColor プロパティ	差異	新しいコントロールでは、BackColor プロパティに負の値を設定した場合、値は 0(黒)になります。 古いコントロールでは、値は 16777215(白)になります。
BottomMargin / RightMargin / LeftMargin / TopMargin プロパティ	差異	新しいコントロールでは、負の値を設定した場合、値は 0 になります。 古いコントロールでは、負の値がそのまま設定されます。
Find 関数	機能強化	新しいコントロールでは、改行および一部の特殊文字も検索できます。
GetTextColor / GetTextStyle 関数およびフォント設定	差異	新しいコントロールでは、選択したテキストに複数の設定が含まれている場合、選択したテキストの最初の文字の設定 (テキストの色、フォント名、テキストのスタイルなど) を返します。 古いコントロールでは、選択したテキストに複数の設定が含まれている場合、空を返します。

影響範囲	種別	概要
GetAlignment / GetSpacing / GetParagraphSetting 関数	差異	新しいコントロールでは、複数の段落が選択されている場合、挿入ポイントが配置されている段落（または間隔、段落設定）を返します。 古いコントロールでは、null を返します。
GetParagraphSetting 関数	差異	使用される単位が異なるため、新しいコントロールと古いコントロールで戻り値が異なります。
Visio 図面	新機能	新しいコントロールでは、Visio 図面の挿入、貼り付けができます。
プレビュー	新機能	新しいコントロールでは、すべてのページをスクロールしてプレビューできます。 古いコントロールでは、最初のページだけプレビューできます。
SelectedPage 関数	機能制限	新しいコントロールでは、表示されているページの番号を返します。 古いコントロールでは、挿入ポイントの配置されているページを返します。
ShowHeadFoot 関数	差異	新しいコントロールでは、ドキュメントがプレビューモードの場合、ヘッダー、フッターを表示 / 非表示した後、プレビューモードを閉じます。 古いコントロールでは、プレビューモードのままです。
ReplaceText 関数	機能制限	新しいコントロールでは、置換後のテキストは指定された文字列の設定（フォント名、フォントサイズなど）を引き継ぎます。
SaveDocument 関数	機能制限	新しいコントロールでは、HTML に保存すると画像の品質が落ち、ドキュメントとは別のファイルに保存され、画像ファイルは絶対パスで参照されます。
CopyRTF 関数	差異	新しいコントロールは、古いコントロールより多くの種類の情報が含まれるため戻り値のサイズが大きくなります。
挿入ポイント	差異	ユーザーがエディタの区域を変更（ヘッダー / フッター区域から詳細区域へ移動など）すると、挿入ポイントが最終行、最終カラムに設定されます。
入力フィールド	差異	新しいコントロールでは、入力フィールドのデータ長は 2000 文字以下に制限されますが、古いコントロールでは、そのような制限はありません。

影響範囲	種別	概要
フォント	差異	新しいコントロールでは、ユーザーが英語以外の入力方法で英字を入力すると、挿入された文字は他の文字と異なるフォントを使用しているように見えますが、実際には同じフォントを使用されています。
画像	差異	新しいコントロールでは、画像のみを手動で選択する場合、後ろから前へドラッグすることで選択できます。前から後へのドラッグでは画像のみを選択することはできません。
箇条書きリストの整列	不具合	新しいコントロールでは、箇条書きリストが本文のテキストと完全に一致していないため、プレビューモードおよび印刷モードでリッチテキストエディット編集スタイル列の行頭記号が表示されません。

4.6 PowerServer Mobileの組み込み

PowerBuilder 2017 Universal Editionには、デフォルトでPowerServer Mobile(以前のAppeon Mobile)が組み込まれており、PowerBuilder開発者はクライアント/サーバーアプリをモバイルデバイスにデプロイできます。

注意

この組み込みPowerServer Mobileエディションでは、Webデプロイ機能は使用できません。

このPowerServer Mobileは、PowerServer Mobile (PB Edition) と呼ばれ、以下のコンポーネントが含まれています:

- PowerServer Toolkit

PowerBuilder IDE内でモバイルアプリケーションの生成、保守、およびアップグレードを可能にする一連のツールです。

重要: The PowerServer Toolkit 2017は、PowerServer 2017または2016(バージョン2016のPowerServerは、Appeon Serverと呼ばれます)にアプリをデプロイできます。

- PowerServer Mobile (.NETプラットフォーム)

.NET IISアプリケーションサーバーにデプロイされ、データ接続、データウィンドウサポート、トランザクション管理、セキュリティなどのランタイムサービスをモバイルアプリケーションに提供するサーバーコンポーネントのセットです。

- PowerServer Help

PowerBuilder開発者がPowerServerを使用するのに役立つ一連のドキュメントです。

PowerServer Mobileは、使用する前にオンラインまたはオフラインのライセンスでアクティベートする必要があります。手順の詳細については、Appeon License User Guideオンラインヘルプの[Activating PowerServer Mobile \(PB Edition\)](#) (2017) または [Activating PowerServer Mobile \(PB Edition\)](#) (2017 R3)を参照してください。

4.7 新しいライセンスメカニズム

PowerBuilder 2017のライセンスは、PowerBuilder 12.6以前のバージョンとはまったく異なる方法でアクティベートされ管理されます。

PowerBuilder 2017では、開発者は有効なオンラインまたはオフラインライセンスでPowerBuilderをアクティベートする必要があります。アクティベートの方法については、[Appeon License User Guide](#) (2017)または[Appeon License User Guide](#)(2017 R3) オンラインヘルプを参照してください。

製品のトライアル版を使用する場合、[Trial License Activation Guide](#)(2017)または[Trial License Activation Guide](#)(2017 R3)オンラインヘルプに従ってトライアルライセンスを申請し、アクティベートしてください。

4.8 分類された機能

PowerBuilderに新しい機能が追加されていますが、既存のいくつかの機能は不要または使用が推奨されなくなりました。PowerBuilder Help内では、次の3つの機能分類で表示されています。

- **Discontinued(廃止)** – この機能は、製品から完全に削除されています。
たとえば、EAServerプロジェクト/ターゲット、PowerBuilder .NET IDE、およびWindows Formプロジェクト/ターゲットは**廃止された機能**です。
- **Obsolete(廃止予定)** – 利用可能ですが、テクニカルサポート対象外で今後の拡張はありません。
たとえば、Web Data Windowは**廃止予定の機能**です。
- **Stable(安定)** – 利用可能でテクニカルサポートの対象ですが、機能強化は行われません。
たとえば、.NET Assemblyは**安定した機能**です。